allcinema

十二人の怒れる男（1957）

12 ANGRY MEN

メディア 映画
ジャンル ドラマ　犯罪
製作国　アメリカ
色彩　B&W
時間　95分
初公開日 1959/08/01
公開情報 松竹セレクト
映倫　G

【解説】

既に法廷劇の代名詞となって久しい、アメリカ映画史に輝く傑作ドラマ。元々は高い評価を受けたＴＶ作品で、その脚本・演出コンビによる映画版だが、そのいかにもＴＶ向きの密室劇を上手くスクリーンに転化させた手腕は見事の一言。１７歳の少年が起こした殺人事件に関する陪審員の討論が始まったが、誰が見ても有罪と思えたその状況下で、ひとりの陪審員が無罪を主張した事から物語は動き始める……。時には感情的に、時には論理的に展開される討論が、次第に無罪判決への流れに変わっていくスリルが、１２人の点描と共に丹念に描かれていく。脚本のローズと共に製作を担当したＨ・フォンダをはじめ役者陣の充実ぶりも良く、特に最後まで有罪を主張するリー・Ｊ・コッブが強い印象を残す。今までの密室から一転、裁判所前で皆が別れていくラスト・シーンの解放感が快い。

【クレジット】

監督	シドニー・ルメット	Sidney Lumet	
製作	レジナルド・ローズ	Reginald Rose	
	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda	
脚本	レジナルド・ローズ	Reginald Rose	
撮影	ボリス・カウフマン	Boris Kaufman	
編集	カール・ラーナー	Carl Lerner	
音楽	ケニヨン・ホプキンス	Kenyon Hopkins	
出演	ヘンリー・フォンダ	Henry Fonda	陪審員８番
	リー・Ｊ・コッブ	Lee J. Cobb	陪審員３番
	エド・ベグリー	Ed Begley	陪審員１０番
	マーティン・バルサム	Martin Balsam	陪審員１番
	Ｅ・Ｇ・マーシャル	E.G. Marshall	陪審員４番
	ジャック・クラグマン	Jack Klugman	陪審員５番
	ジョン・フィードラー	John Fiedler	陪審員２番
	ジョージ・ヴォスコヴェック	George Voskovec	陪審員１１番
	ロバート・ウェッバー	Robert Webber	陪審員１２番
	エドワード・ビンズ	Edward Binns	陪審員６番
	ジョセフ・スウィーニー	Joseph Sweeney	陪審員９番
	ジャック・ウォーデン	Jack Warden	陪審員７番

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.